

気候変動 (TCFD 提言への対応)

当社はTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言に賛同を表明しています。CO₂排出量削減に貢献する製品の開発とともに、自社事業所からのCO₂排出量削減に取り組んできました。今後、サステナビリティ行動計画において目標としている「2030年にCO₂削減50%(2013年度比)、2050年にネットゼロ」に向けサプライチェーン全体での排出量削減も目指し積極的に取り組みます。

ガバナンス

三洋化成グループでは、取締役会の監督下に、委員長を社長とするサステナブル経営委員会を設置しています。サステナブル経営委員会は、カーボンニュートラルやTCFD提言への対応を含むサステナビリティ課題やステークホルダーとの連携に関する審議、ならびに進捗状況の確認を行っており、適宜、取締役会への提案・報告も行っています。CO₂排出量削減のための具体的施策の立案・実行はCSR推進管理委員会が担っています。体制と仕組みを構築する他、同委員会のもとで行うCSR活動の状況をサステナブル経営委員会に報告します。

シナリオの考え方

1.5℃シナリオ 「+1.5℃」に気温上昇を抑制していくためにCO₂排出を強力に抑制するシナリオ

(参考) 国際エネルギー機関における長期的な見通し「Net Zero Emissions by 2050」
(注) 規制の強化と社会や市場の大きな変容を移行リスクの中心シナリオとして検討

4℃シナリオ 産業革命以前と比較し、21世紀末に世界の平均気温が4℃上昇する気候変動が進行した成り行きシナリオ

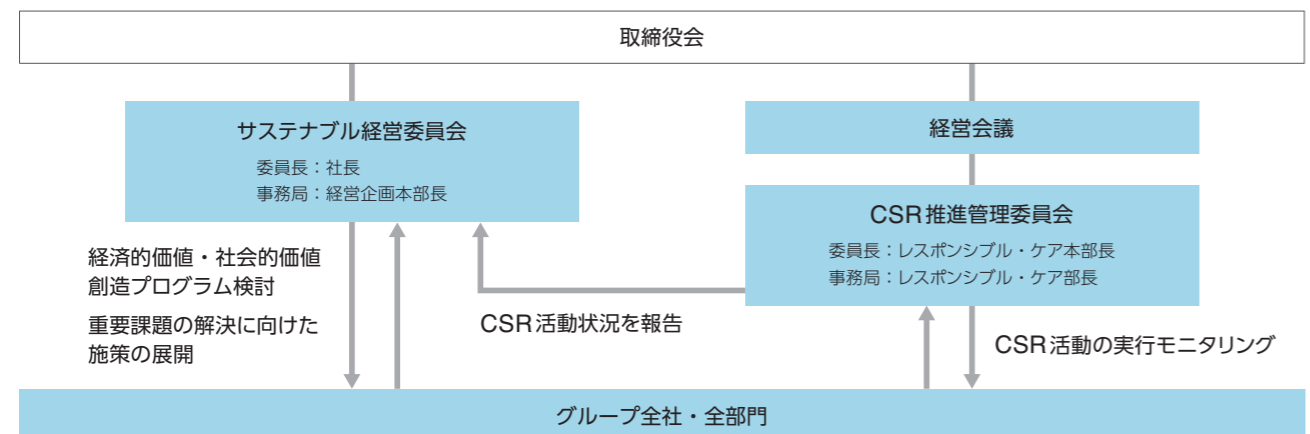
(参考) 気候変動に関する政府間パネル 第6次評価報告書 (IPCC AR6)「SSP3-7.0」

戦略

当社グループは気候変動に関する戦略、リスク管理、指標と目標の策定に当たり、TCFD提言に沿ったシナリオ分析を実施し、事業リスクと機会の選定、重要性評価を行いました。また、2023年度は脱炭素社会への移行が実現する1.5℃シナリオに加え、全世界的に脱炭素が進展せず気候変動が進行した4℃シナリオについても定性的な分析を行い、結果についてサステナブル経営委員会にて審議・決定しました。

1.5℃シナリオで想定される世界	<p>脱炭素社会の実現が最優先、野心的な気候変動政策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●炭素税率の大幅アップ ●内燃機関エンジン (ICE) 販売の禁止、電気自動車 (EV) 化、エネルギー・原料の脱炭素化 ●再生可能エネルギーの主流化 ●リサイクルによる化学品節約 ●バイオマス、CO₂原料からの化学品製造 ●自然災害は徐々に甚大化 ●カーボンニュートラルの実現 (2050年)
4℃シナリオで想定される世界	<p>経済活動優先で脱炭素移行は消極的、現時点での気候変動政策のみ実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●化石エネルギー、原料の需要拡大 ●異常気象による自然災害が激甚化 ●CO₂排出量の大幅な増加

TCFD 提言への対応を推進する体制と役割



気候変動に関する主要なリスクと機会に対する対応策

分類	シナリオ	気候変動リスク項目	気候変動リスクによる三洋化成グループへの影響	影響度評価	対応策
リスク	1.5℃	炭素税の導入・引き上げ	エネルギー調達コストの増加	大	●コジェネレーション・太陽光発電導入によるGHG排出量削減
		CO ₂ 排出量削減	GHG排出量が多い当社品の需要減	大	●エネルギーマネジメントによる製造時のGHG排出量削減
		低炭素製品への置換	バイオマス原料を使用していない当社品の販売機会の縮小	大	●バイオマス原料使用界面活性剤、PPGの販売拡大
		リサイクル規制	リサイクル原料を使用していない当社品の需要減	中	●リサイクル原料を使用した製品の開発
機会	4℃	消費者行動の変化	ガソリン車、ハイブリッド車の販売減少	大	●ガソリン車、ハイブリッド車の省燃費化に寄与する潤滑油添加剤の販売増加
		自然災害 (台風・豪雨・濁水など)	サプライチェーンの分断 自社拠点の被災	大	●BCP体制の構築 (雨水対策や建物・設備の防災対策、水利利用の効率化、原料調達の複数化など)
		炭素税の導入・引き上げ	CCUSの普及 GHG削減に寄与する製品の需要増加	大	●CCU関連製品の開発 ●省エネルギー化に貢献する先端半導体関連製品の開発
		CO ₂ 排出量削減	GHG排出量削減貢献製品の市場拡大	大	●風力発電用炭素繊維集束剤の販売拡大
	1.5℃	低炭素製品への置換	バイオマス原料使用製品の市場拡大	大	●バイオエタノール用工程薬剤の事業拡大
		リサイクル規制	リサイクル対応製品の需要増加	中	●リサイクル材料活用に関する製品開発 (画像薬剤、ウレタン材料、樹脂分散剤等の分野)
		消費者行動の変化	モビリティの低燃費化に伴う電池の軽量化促進 電気自動車の販売増加	中	●軽量化に貢献する有機正極二次電池用有機正極の開発 ●自動車の電装化に伴う電解液の販売増加 ●半導体需要増に伴うICトレイ用永久帯電防止剤の開発
		自然災害 (台風・豪雨など)	断熱塗料の需要拡大に伴う塗料用バインダーの需要増加	中	●断熱塗料用バインダーの開発
4℃	平均気温の上昇	環境変化に強い農作物などの市場拡大	中	●農産物の生産性向上に寄与するバイオスティミュラント機能を有する製品開発	
		水質悪化対策として、水質改良需要の高まり	中	●水質改良剤の開発	

(注) 影響度評価については影響する金額を推定し、その大きさによって大、中、小と分類

リスク管理

脱炭素化に向けたカーボンプライシング等の政策による規制が強まるとともに、脱炭素に適した素材への需要シフトをリスクとして想定しています。また循環型経済への移行加速や脱炭素社会に向けた革新技術の進展も検討の対象としています。

機会については事業ポートフォリオの抜本的な見直しを含め、サステナブル経営を力強く推し進めることでCO₂の排出削減に貢献します。

指標と目標

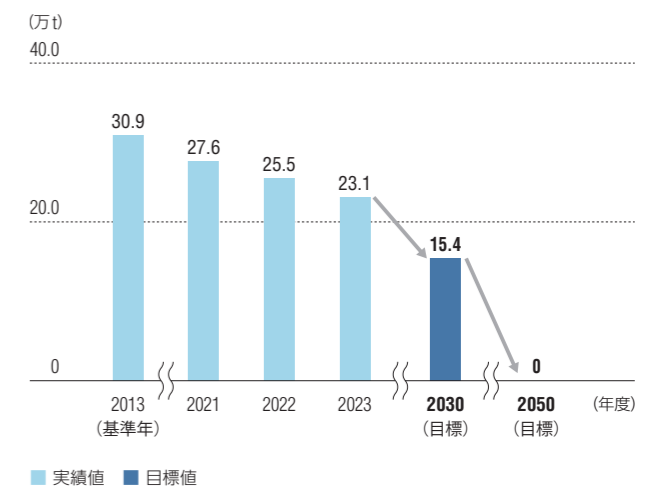
Scope1*1およびScope2*2: 事業所からの排出

当社グループは、「2030年度 CO₂排出量50%削減 (2013年度比)」「2050年ネットゼロ」実現に向けて取り組みを推進してきました。2023年度にはSAP事業から撤

退したことにより2030年度目標を前倒しで達成できる見込みです。

※1 Scope1: 製造プロセスにおける燃料使用など、工場からの直接排出
※2 Scope2: 工場外からの電力・熱の購入などによる間接的な排出

CO₂排出量削減の目標 (Scope1、Scope2)



WEB [カーボンニュートラルに向けたロードマップ / Scope3: サプライチェーンを通じた排出](#) >